

中部ブロック会報 第37号

2022年度中部ブロック研究会 2023年2月25日(土)
開催:オンライン(Zoom)

【2022年度・中部ブロック研究会を終えて】 ブロックリーダー 中川 雅人(中部学院大学)



今年度もブロック研究会がオンラインで開催されました。15名の参加があり、その中には遠方や他ブロックの会員もいらっしゃいました。これはオンライン開催の好例だと思います。新型コロナが落ち着き、様々なイベントが対面に戻りつつありますが、オンラインの経験をどう活かしていくかが、ブロック運営における今後の大きなテーマであると考えます。

さて、今年度をもって私はリーダーの任を終えます。任期4年のうち3年はコロナ対応に追われ、また、最終年度には全国大会の準備と運営もありました。大変ではありましたが、貴重な経験をさせていただきました。これまで様々な場面でご支援を賜りました関係者の皆様にご場をお借りして厚く御礼申し上げます。ブロック会員の皆様には、より一層の研究活動へのご参加・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【次期ブロックリーダー挨拶】 次期ブロックリーダー 河合 晋



この度、日本ビジネス実務学会中部ブロックのリーダーを拝命しました。中部ブロック会員の皆様、宜しくお願い申し上げます。

本学会には、学会長の米本先生からご紹介いただき、2009年に入会させていただきました。その後、ブロックの運営委員やサブリーダー、本部の評議員や事務局長の仕事に携わり、学会運営の経験もさせていただきました。こうした経験を活かし、前リーダーの中川先生がご尽力された中部ブロックの活性化を引き継ぎ、さらに発展させていきたいと思っています。

中部ブロックの大先輩の先生から、「楽しくて、ためになる学会」というお話を伺ったことを覚えています。そうした伝統を引き継ぎつつ、ビジネス実務や大学教育の激しい環境変化の中で、今や新しいビジネス実務研究教育の研鑽が求められています。微力ではありますが、中部ブロック研究会の活性化と発展に努めて参りますので、何卒、宜しくお願い申し上げます。

【運営委員退任挨拶】



ブロックサブリーダー 山本 恭子(名古屋学芸大学)

今年度末をもって3年間務めさせていただきました運営委員(サブリーダー)を退任いたします。任期中に担当しましたブロック研究会と全国大会はいずれもオンライン開催となりましたが、新形態の学会開催に運営側として携わる機会をいただき、対面開催時とはまた別の多くの実りを感じることができました。これまでリーダーの中川先生をはじめ運営委員の先生方、中部ブロック会員の皆様には大変お世話になりました。この場をおかりして厚く御礼申し上げます。皆様には、本学会及びブロック研究会の発展のために、今後も変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。ありがとうございました。

運営委員 坂田 裕介(藤田医科大学病院)



今期をもちまして運営委員を退任いたします坂田裕介でございます。1期2年の間、皆様には大変お世話になりました。また、ブロックリーダーの中川雅人先生や運営委員の先生方に助けていただきながら、微力ではありましたが運営委員を務めることができました。

任期中は、新型コロナウイルスが猛威を振るい社会生活も一変するなど、ニューノーマル時代への移行期でありました。ブロック運営においても、刻々と変化する感染状況と社会の動向を踏まえながら試行錯誤を重ね、第41回全国大会の開催やブロック研究会など、貴重な経験をさせていただきました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

研究発表①【医療分野におけるドローン活用の現状と人材育成の課題】

○米本 倉基(東海学園大学)・成田 互(東海学園大学)



米本 倉基 先生

本発表は、技術革新と規制緩和によって、今後活用が期待される災害医療分野での病院間の物流ドローンを活用方法について把握し、貢献できる人材育成について、本学での取組みの事例報告であった。人材育成の取組みは、本学の1年生から3年生の発表者のゼミで国土交通省のガイドラインに沿った学科と実技の授業と、昨年12月に創設された国家ライセンス取得支援制度に向けて、外部ドローンスクールと提携した民間ライセンス取得講座について報告した。さらに、ドローンの医療分野での活用方法について、すでに実証実験を終えている病院関係者へのインタビュー実施の内容を報告した。その結果から近い将来、大学内で正規の授業として国家資格取得を前提としたコース設置を目指し、またドローンの医療分野での人材育成の意義が確認された。



成田 互 先生

研究発表②【地方小規模私立大学経営学部におけるコミュニケーション力評価の一考察】

○大須賀 元彦(中京学院大学)・富田 宏(中京学院大学)・林 勇人(中京学院大学)



大須賀 元彦 先生

本研究は地方における小規模私立大学経営学部のコミュニケーション力評価の在り方について中京学院大学経営学部の事例から検討した。より良いコミュニケーション力評価を学部単位で行っていくためには、第一に、コミュニケーション力の達成度を分析し、その結果を適時教育プログラムに反映できる仕組み、第二に、コミュニケーション力に関連する科目からその力を適切に評価できるアンケートの設計、第三に、中途退学除籍対策含むエンロールマネジメントの視点が重要であることに言及した。また大学の教育課程全体におけるコミュニケーション力の評価においては、入学前と入学時点で学生が抱えている伸ばしたい能力に対する期待や各学期及び年次毎における修学成果、そして在学期間全体を通じた学びの総括といった評価が望まれることを指摘した。今後はこれらの点が地方の小規模私立大学経営学部内に在る課題かどうかを探究していきたい。

ミニシンポジウム『ブロック研究会とDX』

実践報告【JSABS 第41回全国大会の運営におけるDXの実践例】

○中川 雅人(中部学院大学)



中川 雅人 先生

新型コロナウイルス感染症の拡大により、本学会の第39回から第41回の全国大会はオンライン開催となった。本報告は、大会事務局長として第41回大会を運営した経験を踏まえ、オンライン開催のメリット・デメリットを整理するとともに、大会運営におけるICTの活用例を報告するものである。

オンライン開催にはメリットとデメリットがある。参加側の主たるメリットは、時間と場所に関係なく参加できることである。一方デメリットは、会員間のコミュニケーションが不足することである。また、運営側の主たるメリットは、会場設営が不要になり、少人数で運営できることや、遠方、あるいは、多忙な人物にも講演やシンポジストを依頼しやすいことである。一方デメリットは、事前に綿密な計画や機器の動作確認が必要なことである。

円滑なオンライン開催には、大会ごとに知識・経験を蓄積し継承していくことが必要である。オンライン開催で得られた知見を、よりよい大会の運営に繋げられるかどうかは今後の課題である。

ミニシンポジウム『ブロック研究会とDX』

パネルディスカッション

進行:手嶋 慎介(愛知東邦大学) パネリスト:第41回全国大会実行委員



手嶋 慎介 先生

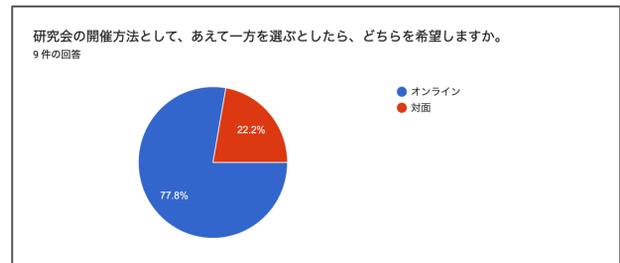
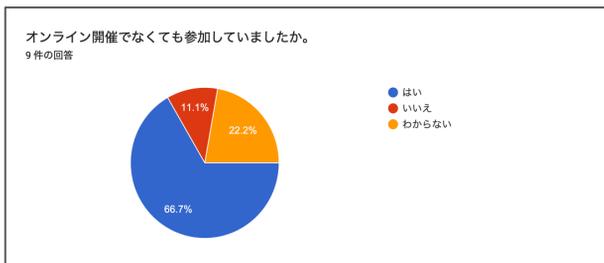
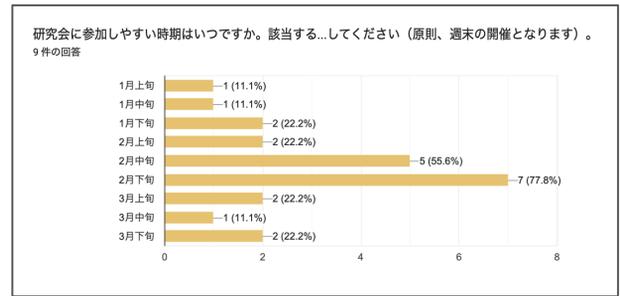
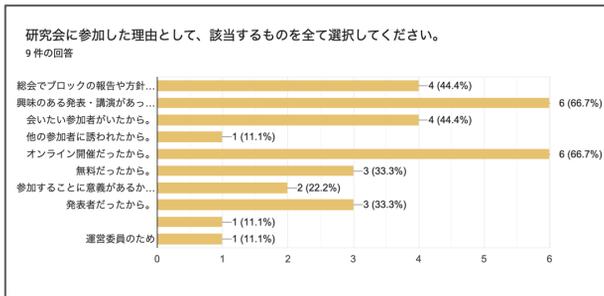
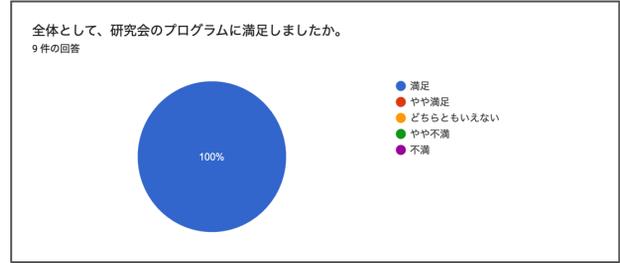
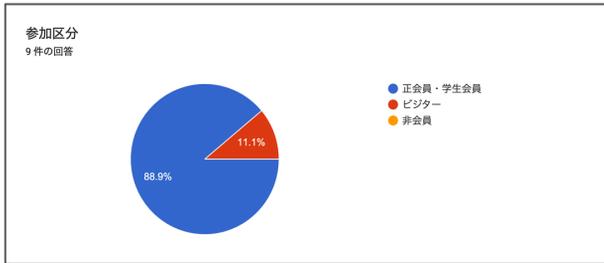
『ブロック研究会とDX』をテーマとするミニシンポジウムの進行をさせていただきました。最初に、中川先生に第41回大会事務局長としての運営経験を踏まえ、オンライン開催のメリット・デメリットの整理など、大会運営におけるICTの活用例を報告いただきました。その後、4人の大会実行委員(当日出席者:上野先生、岡野先生、坂田先生、山本先生)をパネリストとして、参加者からの意見も募りながらディスカッションを行いました。

私からの提案としては、DXによる「学生プレゼンテーションコンテスト」の復活です。2018年度に近畿ブロックとの合同での研究会開催をきっかけに、コンテスト形式での学生参加は2017年度が最後となっています。

ビジネス実務研究においても「デジタル人材育成」などの新しいテーマに取り組む必要もありますし、デジタルの時代だからこそ「学生交流」を媒介として、私たち会員間の人的ネットワークを深め、研究のアップデートも行っていきませんか。

【参加者アンケートの結果報告】

研究会後に実施したアンケートの結果を報告いたします。参加者15名中、9名からご回答をいただきました（回収率60%）。ご協力いただいた皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。



オンライン開催のよかった点があれば、具体的にご記入ください。

- ・移動の時間がかからなかったこと
- ・対面より時間的制約が少ない点。
- ・移動時間、移動・宿泊費などの軽減。直前の参加が可能。
- ・他の用事があっても移動せず同時並行で参加できる
- ・会場まで移動する必要がないこと。自宅や研究室などリラックスできる環境で発表や視聴できること。

オンライン開催の改善点があれば、具体的にご記入ください。

- ・オンラインのみの開催を行うのであれば、休憩時間を取り、アウトブレイクルーム等で話ができる環境が構築されることが望ましいと考えております。実体験として、日本ビジネス実務学会において、オンラインでお知り合いになった先生と（一度もお会いすることはありませんでしたが）共同研究を行ったりできました。これらは、アウトブレイクルームでの会話がきっかけとなっております。ですので、メインの研究会のみならず、余白をあえてつくり、そこでの雑談を意識的に組み込むことも対面とオンラインの垣根を超えるための手法ではないかと考えております。

オンライン、または、対面での開催を希望する理由があれば、具体的にご記入ください。

- ・対面では、時間共有のみならず空間共有が行われるため、より情報の共有がしやすくなりますが、オンラインでは、時間的制約が大幅に緩和されることから、参加がより容易になるためです。
- ・遠隔地居住なので、どちらかと言われればオンライン開催がすべて簡略になります。
- ・研究会は全国大会と比べて小規模なのでオンラインに適しているのでは
- ・地方に住んでいるので、おそらくどの会場も距離的に遠く、移動に時間とコストがかかるため

【リモート開催について】

Zoomによるブロック研究会も3回目となりました。発表者も運営側も操作に慣れ、スムーズに進行できました。



お知らせ① 【第42回全国大会について】 大会統一テーマ 『ビジネス実務教育を測る』

＜大会日程及び会場＞

2023年6月10日(土)・11日(日) 大手前学園さくら夙川キャンパス

1日目は、総会と基調講演、研究発表を行います。2日目は、研修会を企画しております。詳細は決まり次第、全国大会のご案内(第2号通信)でお知らせいたします。是非、ご参加ください。

お知らせ② 【中部ブロック研究助成について】

次年度の研究助成につきましては、現在、運営委員会で検討中です。決定次第、メールでご案内いたしますので、今暫くお待ちください。

【編集後記】

ブロックサブリーダー 岡野 大輔(金城大学)

本年度、中部ブロックが担当致しました第41回全国大会は、多くの方々のご支援を賜り、盛会裏に終えることができました。今回の中部ブロック研究会では、全国大会の運営を題材として、『ブロック研究会とDX』をテーマにミニシンポジウムを開催致しました。昨年度と同様、オンラインでの開催となりましたが、今後のブロック研究会の在り方なども含め、活発な議論や意見交換が展開され、有意義な研究会となりました。今回も、研究会の開催及び会報へのご執筆にご尽力、ご協力を頂きました先生方、参加者の皆様には心より御礼を申し上げますとともに、引き続きご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。